

Relationship between housing environment and allergic symptoms of children using ATS-DLD questionnaires.

出典 The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine(0385-0005)
10巻1号 Page51-60(1985. 04)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/1987102645>)

著者 Osaka F 他

調査地域 東京都杉並区、静岡県清水市、神奈川県愛川町

調査時期 1981年11月～1982年2月

調査対象 小学生

依頼数 1851人：東京都杉並区2小学校
2287人：静岡県清水市2小学校
1186人：神奈川県愛川町1小学校：

回収率 97.7%：東京都杉並区
96.4%：静岡県清水市
96.3%：神奈川県愛川町

診断方法 ATS-DLD

有症率 アレルギー性鼻炎 15.8%：東京都杉並区（286/1808人）
15.7%：静岡県清水市（345/2203人）
8.5%：神奈川県愛川町（98/1149人）

血清 IgE 測定 (RIST 法) が 300U/ml 以上の者：

55.8%：東京都杉並区（91/164人）
49.1%：静岡県清水市（81/165人）
40.4%：神奈川県愛川町（36/89人）

アレルギー性鼻炎で血清 IgE が 300U/ml 以上の者：

69.7%：東京都杉並区（46/66人）
69.0%：静岡県清水市（40/58人）
63.6%：神奈川県愛川町（7/11人）

調査概要 居住環境（東京都杉並区、静岡県清水市、神奈川県愛川町）とアレルギー症状の関係の調査論文。アレルギー性鼻炎有症率と非特異的 IgE 抗体値は愛川町が最も低く、居住構造の差は小さかったが居住地域差があった。